

UDCBK 令和3(2021)年度 事業報告

1. はじめに

今年度は、UDCBK が事務局となった南草津エリアにおける長期ビジョンづくりがまとまり10月に策定され、今後のまちづくりにとって大きな前進があった。このビジョンは、今後南草津エリアで個別事業を行う際の指針となるものである。UDCBK としては、ミッションに基づきアーバンデザイン事業としてふさわしい取組を社会実験準備事業等も活用しつつ、地域や様々な組織と連携しながら、各種事業の取組みを追求した。

新型コロナウイルス感染の長期化により事業展開は大きな制約を受け、改めて UDCBK のミッションに照らして各事業を見直す必要に迫られた年となった。

また10月以降、立命館大学BKC地域連携課より職員派遣が行われることになったことも産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとっては大きな前進となった。現段階では課題の共有が中心であるが、来年度からの各事業プロジェクトでの役割発揮が期待される。

上記をふまえて、令和3年度の事業を以下に報告する。

2. 事業プロジェクト

UDCBK は、ミッションに基づいて三つの事業プロジェクトを位置づけ活動を展開している。このような形での取組は本年度で3年目となり一定の節目を迎えた。

(1) 都市デザイン連携プロジェクト

① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

a) プリムタウン1号公園づくり

南草津駅に隣接した南草津プリムタウンで計画されている1号公園について、新たに居住する住民の要望や意見をワークショップなどの参加型の取組で反映し、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを令和元年度から社会実験準備事業として取組んできた。令和2年度はコロナ禍によりかなりの制約を受けたが、第1工区町内会設立委員会に連携協力いただくなどの前進があった。

この取組みは、令和3年度で3年目に入り公園の具体的デザインや活用を考えるべく、1号公園を日常的に利用することとなる住民と都市再生課と連携した取組として継続した。

新たに設立された町内会の協力を得て、11月に多くの地域住民参加のもとワークショップが開



催され10～20年後の公園のあり方を思い浮かべながら話し合い自分たちが住み続けるまちの未来について考えた。またワークショップ開催前には、立命館大学学生団体 Design Factory の協力を得て公園に掲示板やパーゴラを設置するなどの取組みを行った。

b) みなくさまちライブラリー

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口の東山道記念公園の活用について、「みなくさまちライブラリー」を令和元年度から取組んできた。今年度は、草津まちづくり会主催の「ゆめほん DAY」に複数回参加するなど、この活動を通じて、他のイベント参加にも繋がり広がり生まれた。

c) UDCBK での学生成果発表

学生が授業で製作した都市建築デザイン作品のUDCBKでの展示を継続して行った。今年度は、西口駅前広場と養老複合施設をテーマに行われた大学での演習の優秀作品の成果発表を、第3回アーバンデザインセミナーで学生が模型を使って行い、未来の南草津駅周辺の魅力的な空間づくりを多様な視点から考えた。



② 南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進

コロナ禍で屋内空間では三密が問題となるため屋外空間を利用することで安全で快適な活動ができる。多くの車中心の地方都市での駅前の公共空間は主に車の一時停車と歩行者の通過動線として利用されておりJR南草津駅も例外ではない。駅周辺に人が留まることのできる空間が少ないとの問題意識から、人々が滞留したくなる魅力的な空間づくりを建築物の屋内・歩道にまたがる公民連携空間の利用促進により、健幸都市を標榜する草津市らしい「歩いて暮らせるウォーカブルなまち」を実現する取組みを、社会実験準備事業も活用しながら新たなプロジェクトとして位置付け進めてきた。

今年度社会実験準備事業で採択した A 区分「地域と大学の連携によるウォーカブルスペースの創出」(立命館大学理工学部寶珍助手)では、エリア内の市民・事業者などを対象とした現地調査、アンケート、ヒアリング等を取組み、下記のとおり、全4回のワークショップを開催した。



実際にまち歩きを行い、活用アイデアを出し合いながら、模型を使って形にし、まちなかで試してみる参加型の企画を行った。参加者からは話したことが形になっていく喜びや既成概念にとらわれず自由な発想で街のデザインをつくっていく楽しさが語られ、よりまちづくりに関心を持っていただく機会となり大きな成果を収めた。

	開催日	内容
第1回	9月15日	パブリックスペースについて学ぼう！(レクチャー)
第2回	10月9日	南草津でお気に入りのパブリックスペースをみつけよう！
第3回	11月27日	模型を使ってアイデアを表現してみよう！
第4回	12月11日	試しに駅前で過ごしてみよう！

(2) 都市と交通プロジェクト

令和元年度から立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートした本プロジェクトは昨年度の事業報告にあるように3つのシナリオの提案にまとめるなど貴重な成果をあげた。

令和3年度は、JR南草津駅に新快速電車が停車し10年を迎えたこともあり、JR西日本株式会社と共催でイベントを実施した。10月には「駅から見る未来のまちの風景」と題し、話題提供いただき、アーバンデザインセミナーを開催



した。さらに、10年前と現在のまちの移り変わりから南草津エリアまちづくり推進ビジョンで描いた10年後、都市と交通シナリオスタディで描いた20年後のまちのイメージ図のパネル展を開催した。UDCBKでの展示をはじめ、JR南草津自由通路やJR草津駅構内にも展示出来た事、またマスメディアに取り上げられた効果もあり、多くの方に未来のまちづくりを考える事のきっかけに繋がった。また、ワークショップに参加いただいた産学関係者とUDCBKで郊外部における未来のウォークアブルなまちづくりを考える勉強会を複数回行った。令和4年度には一定の論点を整理しながら地域の理解と協力を得ながら活動を本格化させる予定である。

今年度、プロジェクト運営が十分に行えなかったが、次年度に向けてプロジェクトを強化し、南草津ビジョン実現の一環としてウォークアブルなまちづくりのための活動を進める。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約7,000名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組みを進めることは産学公民連携のプラットフォームであるUDCBKにとって重要な課題である。

令和2年度は大学のキャンパス閉鎖やオンライン授業へのシフトなどで学生生活が影響を受け十分な取組みができなかったが、令和3年度は令和元年度から継続している、立命館大学理工学部環境都市工学科のまち調べオープンプレゼンテーションを開催いただいた。継続的に実施いただいている結果、地域で学ぶ学生を応援したいと、市民から情報提供をいただく繋がりができた。また、学生団体の活動をUDCBKで紹介をすることにより、学生が地域での活動に参加する契機となった。

「はじめに」で記したように、昨秋、立命館大学からUDCBK運営への職員派遣が判断される前進があった。可能なことから取組みを進め本格的な展開を目指す。

	実施日	内容	主催者
1	6月12日 ～6月18日	Design Factory 活動紹介	立命館大学理工学部建築 都市デザイン学科 DesignFactory
2	7月6日 7月13日	立命館大学環境都市工学科2回生による まち調べオープンプレゼンテーション	立命館大学理工学部環境 都市工学科

3. 学習事業

学習事業は、オンラインでの開講・受講と UDCBK での視聴を基本として運営している。今年度の取組み状況は以下の通りである(予定含む)。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各 5 回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

前期は、令和元年度開講した「アーバンデザイン講座」の講師陣に再度協力いただき、「アーバンデザインの探究」をテーマとして開講した。

前期	開催日	内 容	参加者数
第 1 回 ⊙	6 月 2 日	テーマ:アーバンデザインの歴史と系譜 講師:前田 英寿 氏(芝浦工業大学 建築学部 教授)	21 人 内訳 オンライン 19 人 UDCBK 2 人
第 2 回 ⊙	7 月 9 日	テーマ:都市空間を構想する 講師:野原 卓 氏(横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授)	24 人 内訳 オンライン 22 人 UDCBK 2 人
第 3 回 ⊙	8 月 6 日	テーマ:都市を再生する 講師:黒瀬 武史 氏(九州大学大学院 人間環境学研究院 教授)	16 人 内訳 オンライン 14 人 UDCBK 2 人
第 4 回 ⊙	9 月 22 日	テーマ:参加・協働の場をつくる 講師:阿部 大輔 氏(龍谷大学 政策学部 教授)	21 人 内訳 オンライン 21 人 UDCBK 0 人
第 5 回 ⊙	10 月 13 日	テーマ:都市景観をマネジメントする 講師:遠藤 新 氏(工学院大学 建築学部 教授)	17 人 内訳 オンライン 15 人 UDCBK 2 人

後期は、子育てから未来に向けたまちづくりを思い描いた時、どのようなことを考えていく必要があるかという視点から、「子育てからまちづくりを考える」をテーマとして開講した。

後期	開催日	内 容	参加者数
第 1 回 ⊙	11 月 10 日	テーマ:ドイツの子育てまちづくり 講師:遠藤 俊太郎 氏(一般財団法人交通経済研究所 主任研究員)	26 人 内訳 オンライン 21 人 UDCBK 5 人
第 2 回 ⊙	12 月 1 日	テーマ:ソーシャルビジネスとしての子育て支援 講師:中橋 恵美子 氏(認定 NPO 法人わははネット 理事長)	15 人 内訳 オンライン 13 人 UDCBK 2 人

・表中の⊙等は、産学公民の連携先を示している。⊙企業など、⊙大学など、⊙行政など、⊙市民など。

第3回 学	1月15日	テーマ:子どもと子育て世代の目線から見る“まちなか” 講師:高柳 百合子 氏(富山大学 都市デザイン 学部 都市・交通デザイン学科 准教授)	11人 内訳 オンライン 10人 UDCBK 1人
第4回 学	2月18日 (予定)	テーマ:保育園とまちづくり 講師:後藤 智香子 氏(東京大学 先端科学技 術研究センター 特任講師)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第5回 学	3月5日 (予定)	テーマ:子育て世帯が外出しやすいまちづくり 講師:大森 宣暁 氏(宇都宮大学 地域デザイン 科学部 社会基盤デザイン学科 教授)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人

※ コーディネート: 及川清昭氏 (UDCBK センター長、立命館大学理工学部 特命教授)

(2) アーバンデザインセミナー(年間10回)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題や関心に応える内容を目指す。

今年度は、包括協定締結大学の地域連携の取組みや、まちづくりに資する特色ある経営を進めている企業から話題提供していただくなどの取組みを重視した。

	開催日	内 容	参加者数
第1回 学 公	5月26日	テーマ:草津の未来につなぐ SDGs 講師:谷口 嘉之 氏(滋賀県立大学 地域共生 センター 地域連携コーディネーター)	32人 内訳 オンライン 27人 UDCBK 5人
第2回 学 公	7月28日	テーマ:みんなでつなぐ南草津の未来へ 講師:金 度源 氏(立命館大学 理工学部 環境 都市工学科 准教授)	16人 内訳 オンライン 15人 UDCBK 1人
第3回 学	8月18日	テーマ:駅前の魅力的な空間づくり 講師:阿部 俊彦 氏(立命館大学 理工学部 都 市建築デザイン学科 准教授、UDCBK 副センター長)	17人 内訳 オンライン 11人 UDCBK 6人
第4回 学 産 公	10月16日	テーマ:駅から見る未来のまちの風景 講師:北川 久男 氏(西日本旅客鉄道株式会 社 草津駅 駅長) 宇加江 哲 氏(西日本旅客鉄道株式会 社 草津駅 社員) 野口 明 氏(西日本旅客鉄道株式会社 京都支社 地域共生室 室長) 阿部 俊彦 氏(立命館大学 理工学部 都市建築デザイン学科 准教授、 UDCBK 副センター長)	20人 内訳 オンライン 12人 UDCBK 8人

第5回 学	10月29日	テーマ:地域と大学とのつながりが生む新しいまちの風景 講師:只友 景士 氏 (龍谷大学 政策学部 教授)	10人 内訳 オンライン 9人 UDCBK 1人
第6回 産	11月17日	テーマ:サイクルスポーツを通じたまちづくり 講師:前田 知秀 氏 (株式会社Microbit シニアマネージャー/Cycling×LifeProject 参加メンバー) 戸村 謙一 氏 (株式会社 Microbit アドバイザー/医療福祉情報コーディネータ)	16人 内訳 オンライン 12人 UDCBK 4人
第7回 産学	12月22日	テーマ:まちとライフスタイルをつなごう! 講師:久米 昌彦 氏 (東邦レオ株式会社) 金 度源 氏 (立命館大学 理工学部 環境都市工学科 准教授)	21人 内訳 オンライン 14人 UDCBK 7人
第8回 学民	1月19日	テーマ:大学生とあなたの発見をまちのお宝に! 講師:石川 亮 氏 (美術家/成安造形大学 芸術学部 准教授) 大塚 佐緒里 氏 (草津おみやげラボ所長)	22人 内訳 オンライン 15人 UDCBK 7人
第9回 学	3月11日 (予定)	テーマ:世界の伝統的集落から都市と住まいの知恵をくみ取る 講師:及川 清昭 氏 (立命館大学理工学部特命教授・UDCBK センター長)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人
第10回 学	3月18日 (予定)	テーマ:オランダの交通まちづくり 講師:塩見 康博 氏 (立命館大学理工学部准教授/デルフト大学特別研究員)	一人 内訳 オンライン 一人 UDCBK 一人

4. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する7大学を対象にUDCBKの提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和3年度については、3大学5件と委託契約を締結した。今年度からは、11月末に中間報告書の提出をお願いし、事業の進捗管理を行った。2月末までの委託期間であり、市民に成果を公開するために成果報告会を2月16日に行うとともに成果報告書のWeb公開を予定している。

今年度は、特にマスメディアに情報提供など、活発に取り組んでいただいた。

*募集要項配布:4月7日

*募集締め切り:5月7日

*決定通知:6月1日

*計画書修正・契約手続き期間:6月1日~6月17日

*委託期間:令和3年7月1日から令和4年2月26日

*中間報告書提出:11月30日

*成果報告会:2月16日

A 区分

単位:円

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
住民参加の新しい公園づくり	南草津プリムタウンの公園中心型コミュニティデザインを目指すための社会実験	立命館大学	理工学部 准教授 金 度源	300,000	272,500
歩いて暮らせるまちづくり	地域と大学の連携によるウォークアブルスペースの創出～通過する駅前から歩行者の居場所への転換～	立命館大学	理工学部 助手 寶珍 宏元	300,000	272,500

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名	応募額	審査決定金額
健康活動を誘発する環境づくり	子育てを楽しめるまちづくりを実現するためのストレスリリーフイベントの提案－育児ストレスサポートシステムの構築に向けて－	滋賀大学	教育学部 教授 大平 雅子、 教授 芦谷 道子	181,500	146,000
歴史と文化、景観の魅力を活かすまちづくり	街道を歩いて体験するAR街道博物館アプリの開発と観光への活用	立命館大学	理工学部 助教 藤井 健史	199,100	160,000
	暖簾や幟旗などを活かしたまちづくり－着なくなった着物や端切れなどの利用	滋賀県立大学	人間文化学部 教授 宮本 雅子	185,840	149,000

区分 A:2 件(545,000 円)

区分 B:3 件(455,000 円)

合計 5 件(1,000,000 円)

5. オープンスペース

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、数回の閉鎖を余儀なくされ、また再開後も 3密回避の措置をとっていることからスペース利用が制限され、従来の交流、学習、協議が著しく影響を受けたが、令和3年度も感染の長期化により制約を受けた状態が継続している。セミナーやスクールがオンライン形式にシフトするなどの変化や、UDCBK の施設賃貸借料が年間予算の半分近くを占めていることから、ミッションに照らして本事業のあり方の見直しが必要になってきている。このことから10月21日に開催した第2回 UDCBK 事業運営懇話会では協議事項とし意見を多くいただいた。現在の UDCBK 内のオープンスペースの在り方を“まちの広場”としてのオープンスペースを当面維持しつつも、全国の事例も参照しながらさらに検討を進める。

(1) オープンスペース利用者数

令和 3 年 4 月～令和 4 年 1 月 5,109 人 (前年度比 707 人増)

〈内訳〉

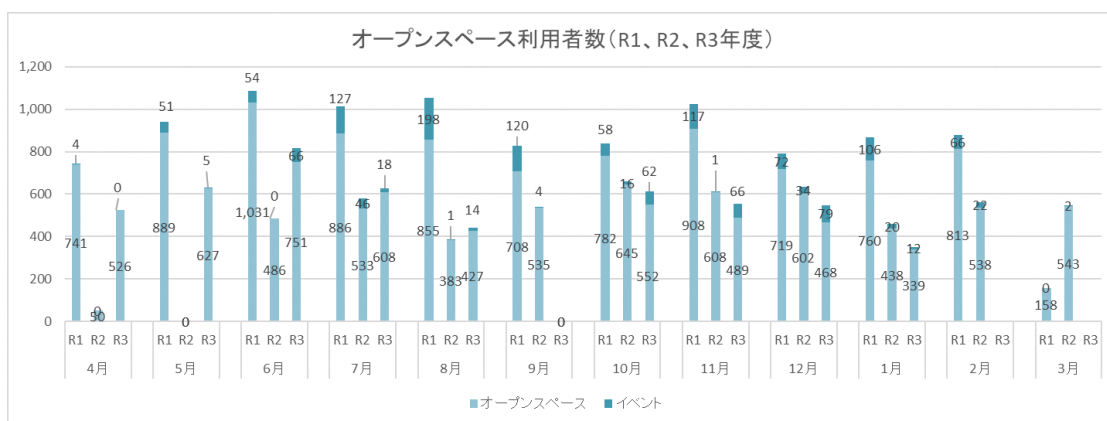
オープンスペース利用者 4,787 人 (前年度比 507 人増)

イベント参加者 (UDCBK 内) 322 人 (前年度比 200 人増)

1 日平均 28.23 人 (前年度比 2.73 人増)

※新型コロナウイルス感染症拡大予防に伴う休室期間 (8 月 27 日～9 月 30 日)。

オープンスペースの利用再開後については、座席数を半分に減らし、机・椅子の移動を控えてもらう等、密を避ける体制を取っている。



(2) 利用者アンケート

UDCBK のオープンスペースを初めて利用される方や特に UDCBK に意見を伝えたい方を対象に、年間を通じてアンケートを実施している(延べ 77 人(1月末現在))。また、UDCBK のオープンスペースを利用される方全員を対象に、1 箇月間(令和 3 年 11 月 26 日から 12 月 25 日まで)、特別調査を実施した(回収率 86.5%、229 人中 198 人)。今年度は新たに利用時間帯も調査対象とした。主な結果は次のとおりであり、今後、UDCBK の各種プロジェクトに参画してもらえるよう啓発や呼びかけが必要となる。

現状	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の約 7 割が女性 ② UDCBK 利用者の約半数が児童・生徒・学生(小・中・高・大学生) ③ UDCBK 利用者の利用目的の約半数は学習などの作業のため ④ 利用者の約 8 割の人が UDCBK 主催のセミナーなどに参加したことがない ⑤ UDCBK の場所を知るきっかけの約半数は友達や知り合いからの紹介
令和 2 年度特別調査との比較	<ul style="list-style-type: none"> ① 昨年の同時期と比べ、利用者数が減っている。 ② 利用頻度は「週に数回」利用者が減り、「年に数回」「月に数回」が増えた。 ③ 利用者の年代は 10 代が依然多いが、20 代の利用者が増えており、10 代・20 代が約 6 割を占めるようになった。 ④ コロナ禍もあってか、イベント参加や出会いの場としての利用者は減った。 ⑤ 利用目的として、打合せ利用が午前中かお昼過ぎ、学習利用が夕方以降が多い。

(3) やさしい日本語サロン

やさしい日本語サロンは、外国にルーツを持つ人と日本人がやさしい日本語で交流を深めつつ、草津のまちづくりについて考えるきっかけを提供することを目的に、令和元年度までは毎週対面で開催していたが、令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、積極的にオンラインを活用し、草津市国際交流協会(KIFA)と共催し、活動を継続してきた。オンラインでは、外国と日本の文化の違いや、日頃やさしい日本語サロンに携わる方々が行っている活動等を聞く機会を設けた。

(4) オープンスペースでの情報発信

施設内に設置している大型プロジェクターを用いて次のように曜日ごとに内容を変えて様々な情報を提供している。

火	水	木	金	土
連携・共催事業 関連 (KIFA 等)	草津市役所 公式 YouTube	スクール等 UDCBK の 情報発信	スクール等の アーカイブ又は 情報発信	草津市役所 他部署の告知他

6. 情報発信

令和4年1月4日から、従来から検討してきた Instagram を開設。1か月で 82 人のフォロワーとなり、出来る限り毎日更新し UDCBK の活動を発信している。

また、ホームページ上には、公式アカウントを持つ Facebook での発信内容を毎月更新し、Facebook や Instagram を利用されない方にも UDCBK の活動を知ってもらえる工夫をしており、引き続き、様々な方の意見を参考にしながら情報発信に努める。

●Instagram での情報発信

1月 21 回発信

●Facebook での情報発信

4月～1月 140 回発信（前年比 20 回増）

7. 法人化検討

平成 30 年に UDCBK 法人化検討委員会の答申を受け、UDCBK のミッションを明確にして各種プロジェクトを立上げ事業を行ってきており、法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットに事業を当てはめ、組織形態など検討を継続した。

全国にあるUDCは様々な組織形態で運営していることから、UDCイニシアチブと連携、協力を得て、今年度はアンケート調査を実施した。

前述したように新型コロナウイルス感染症の影響により UDCBK のこれまでの事業展開が変化してきている。他方で南草津ビジョンが策定され「新たなプラットフォームづくり」も提起されている。また全国的にエリアプラットホームの設立や未来ビジョンの策定の動きが活発であることから、これまでの法人化検討とは異なる状況が出てきている。

以上のことから UDCBK では、令和 3 年度、after/with コロナの社会変化を注視しながら、ミッションに基づく UDCBK の今後のあり方や事業展開について、事務局で論点整理を行うこととし、「UDCBK 課題整理ブレインストーミング」を4回行って、まちづくりをめぐる全国の取組状況、新しいプラットフォームイメージ、オープンスペースのあり方、財政および補助金問題、法人化議論の進め方などを検討した。

回	開催日	参加者
第1回	4月30日(金)	センター長、副センター長、懇話会座長、総合企画部部長(副センター長)・副部長、産学公民連携調整員、UDCBK 参事、UDCBK 主任
第2回	7月14日(水)	
第3回	10月19日(火)	
第4回	1月6日(木)	

8. UDCBK 事業運営懇話会

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)事業の運営方針の検討、運営状況の確認等を行うとともに、法人化の妥当性について助言をいただくことを目的に設置している。

(令和2年6月1日から令和4年5月31日までの任期)

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の開催】

	開催日	内 容
第1回	5月28日	・令和2(2020)年度実施事業報告 ・令和3(2021)年度実施予定事業(案)
第2回	10月21日	・UDCBK 令和3(2021)年度実施事業(中間報告) ・オープンスペースのあり方について
第3回	2月9日	・令和3(2021)年度実施事業状況について ・令和4年度実施予定事業について

【アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会委員】

区分	氏名	所属・役職
座長	肥塚 浩	立命館大学大学院経営管理研究科長・草津未来研究所顧問
副座長	加藤 幹彦	草津商工会議所専務理事
委員	及川 清昭	立命館大学理工学部特命教授・キャンパス計画室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長)
	阿部 俊彦	立命館大学理工学部都市デザイン学科准教授 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ副センター長)
	田畑 泉	立命館大学 BKC 地域連携室長(スポーツ健康科学部教授)
	田中 浩子	立命館大学食マネジメント学部教授((R3 ~9/13)※1)
	神部 純一	滋賀大学教育学部教授
	阪本 崇	京都橘大学副学長(京都橘大学経済学部教授)
	秦 憲志	滋賀県立大学地域共生センター主任調査研究員
	松浦 昌宏	滋賀医科大学研究戦略推進室産学連携推進部門長 特任教授
	木村 睦	龍谷エクステンションセンター・センター長 (龍谷大学先端理工学部教授)
	伊庭 健治	草津市まちづくり協議会連合会副会長
	有村 敬三	パナソニック株式会社アプライアンス社 人事・総務センター総務部総務一課長
	福知 俊治	株式会社滋賀銀行草津支店長(R3 6/25~)※2
	内山 礼子	公募委員
亀石 弥都	公募委員	
北村 亜耶	公募委員	
松井 栄里	公募委員	

※1 田中浩子氏は令和3年9月14日に御逝去

※2 人事異動に伴い、片岡一明氏から変更

9. その他

(1) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催するとともに、この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBKの各事業に結びつける取組みを進めてきた。

今年度、昨年度のセミナーに参加いただいた企業と地域問題に関わる課題意識の共有が進み、草津市公開データの分析・地域視察などをふまえて産官学の共同研究へとつながっており、地域へのアプローチも行った。

また、産業界との連携事例が少なく課題であったため、UDCBK 運営懇話会や南草津ビジョン推進懇話会参加の産業界メンバーとの懇談をすすめ、新しいまちづくりに資する各種企画や調査研究につながる取組みを進めることが出来た。

(2) 全国の UDC の先進的な取組みに学び、全国組織 UDC ネットワークとの交流を深めている。

9月18日には、令和3年4月1日に開設された「UDCU(宇治市)にUDC078(神戸市)と共に視察に行き、情報交換を行った。これをきっかけに、11月22日には、UDC078(神戸市)主催の学習事業にも参加した。12月4日には、UDCK(柏市)をBKC 地域連携課とともに視察した。

12月18日には「全国アーバンデザインセンター会議」(UDC イニシアチブ共催)がオンラインで開催され、全国のUDC(21活動団体)から17団体の参加があり、UDCBKからは及川センター長はじめの6名が参加した。

参加団体からは、下記のような取組みの紹介がされたほか、「新時代のUDC」をテーマに全国のUDCからの活動報告と、ディスカッション形式で情報交換を行い、UDCネットワークの繋がりをさらに深めた。

【全国のUDCの取組例】

- ・柏の葉スマートシティ実行計画(UDCK):分野を横断したデータ活用が可能となるよう、民間と公共のデータプラットフォームの構築等を行っている。
- ・パブリックライフカシワ(UDC2):公共用地や民有地を使い、居心地の良いまちづくりをするという取組みを続けており、柏駅周辺で社会実験が行われている。
- ・中宇治BASE(UDCU):今年度から設立されたUDCUは、宇治市にある空き家をリノベーションして集える空間とし、名前を「中宇治BASE」として活動拠点としている。
- ・スマートシティスクール(UDCM):グループワークを中心に、松山の地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践するための場として、松山市にある大学や専門学校の協力のもと実施している。
- ・高島平グランドデザイン(UDCTak):高島平において、一番大きい団地、分譲マンションを建て替えていく計画があり、そのまちづくりのデザインに取り組んでいる。

(3)産学公民連携に関わるUDCBKへの相談件数

令和3年4月～令和4年1月 ㊦ 8件 ㊧ 10件 ㊨ 10件 ㊩ 20件 計 48件
例)・みなくさまちライブラリーと市民活動との連携 ・企業イベントと学生団体の連携 等